

重点施策1 特色ある学校づくりと教職員の資質・能力の向上

【施策方針】

- 学校の教育目標の明確化と学校評価システムの改善
- ブロック別研究推進体制等を生かした幼（保）・小・中の交流と連携の推進
- 「三層の情報環流方式」*による情報共有と家庭・地域社会の教育力を活用した児童生徒の健全育成
- 校内研修の充実と人間的魅力に富む教職員の育成

【実施状況】

（1）主な施策・事業

- ① 活力と潤いに満ちた特色ある学校づくり
- ② 幼（保）・小・中の効果的な連携
- ③ 家庭・地域社会との連携
- ④ 現職教育の充実

（2）施策・事業の実施状況

① 活力と潤いに満ちた特色ある学校づくり

教育計画及びグランドデザインに明確な教育目標を掲げ、具体的な方策により特色ある学校づくりに努めた。年2回の学校訪問及び学校視察を通して、その達成状況を確認し、教職員とともに成果と課題を確認した。

また、学校組織マネジメントの視点に立った学校経営と目標管理制度を導入した経営の在り方について助言を行った。さらに、各学校の自己評価や学校関係者評価を通して、特色ある実践について検証し、評価の報告を求めた。その際、学校の取組が適切に評価されるよう、評価項目の見直しを含めた改善を図ることや、自校の目標管理制度の実践と相応した評価となるよう助言した。

② 幼（保）・小・中の効果的な連携

ブロック別研究会を年間2回開催した。小中連携を研究推進の中核として、学力向上対策や様々な体験活動の充実に積極的に取り組んだ。

また、各ブロックで地域の特性や児童生徒の実態に応じ、特色ある地域活動を展開し、地域と一体となった健全育成に取り組んだ。

③ 家庭・地域社会との連携

三層の情報環流方式による情報共有を基盤として、いじめや非行の早期発見に努めるとともに、各ブロックにおける生徒指導上の諸問題について共通理解し、健全育成の充実に向けた協働体制の確立に努めた。

また、体験活動においては、各ブロック単位で、「浜っ子人材銀行」（生涯学習課発行）を参考にして地域の人材を積極的に活用した取組を行った。学校と家庭、地域の連携については、どの学校も会合や校報、HP等による情報発信を積極的に行い、更なる連携の強化につながる取組ができた。

④ 現職教育の充実

各学校では、現職教育計画に基づき、授業力向上のための教科研修や生徒指導力向上を

目指した事例研修や理論研修、及び教職員の服務規律の確立のための研修等、様々な研修を年間40回程度実施した。教育委員会は、研修主任会等でこの計画の実施状況について確認し指導した。

また、市教研教科等部会や教科外部会においては、授業研究を年間約30回、講義研修を延べ20回程度実施し教科指導力等の向上を図った。さらに、職務別研修を定期的に実施し、教職員の資質・能力の向上について共通理解を図った。

校務支援システムについては、小・中学校の通信簿・指導要録の電子化も5年目となり、教職員のリテラシーも向上し、ICTを業務の負担軽減に活用できている。かねてから教職員より要望の強かった、通信簿の「家庭への通信欄」の電子入力についても、次年度より実施の方向で検討した。

4年目を迎えたコラボノートも、始業日や終業日の出欠状況及び感染症の発生や非常変災時の対応に係る報告業務の省力化に成果を上げている。

*三層の情報環流方式

各学校、ブロック（中学校区）、市の三つのいじめ対策委員会が、相互に連携を図りながら、情報交換を積み上げ、協働して課題解決を図る本市独自の取組。

【事務事業点検評価委員意見】

- 教育目標を明確に掲げることにより、教職員は日々の教育活動の指針として、保護者や地域住民は、学校理解に役立っている。年2回の学校訪問及び学校視察等は、各学校の日々の教育活動の推進状況を確認できる場となっている。教育委員会と学校が直接意見交換できる場となっており、各学校とも「特色ある学校づくり」が推進されている。
- ブロック別研修体制は本市の誇れる教育体制である。それぞれのブロックが地域の特色を生かした実践がなされ、学力の定着や児童生徒の健全育成に向け、着実に成果を上げている。今後は、学校統合に伴うブロック再編で地域間格差が生じないように配慮しながら、さらにブロック別研修体制を継続・発展させてほしい。
- 三層の情報環流方式による、校内・ブロック・市と連携した取組は、他市町と比較しても、いじめ、不登校の出現率が低く、すばらしい成果を上げている。
- 校務支援システムの通信簿の「家庭への通信欄」の電子入力については、児童・保護者・教職員が満足できるように、十分に検討していただきたい。校務の効率化によって生まれた時間を一層児童生徒に向き合い、「特色ある学校づくり」につなげてほしい。

教育委員会と学校で連携しながら、教職員の資質・能力の向上に努め、人間的魅力に富む教職員の育成がなされているが、今まで以上に年間を通して実施されている自己評価・学校関係者評価等を検証し、次年度の取組に活用してほしい。

【自己評価】

- 地域との連携をより積極的に推進し、地域の特色を生かした学校経営管理に努める。とりわけ、統合により校区が広域化する学校においては、ランドデザイン等を効果的に活用した情報発信に努めるとともに、これまで大切にしてきた地域における児童生徒の様々な活動

が発展・継続するよう取り組んでいく。

- 各ブロックとも特色ある活動を行い、異年齢間や地域とのつながりを密にしながら、教育成果を上げてきた。ご指摘のとおり、学校統合にともなうブロックの再編が重要課題となるが、地域との連携をより緊密に図り、地域の特色を最大限に生かしながら、小・中連携を基盤とした教育の推進に取り組んでいきたい。
- 校務支援システムの機能を有効に活用し、業務改善の推進を図りたい。校務の効率化によって創出された時間を児童生徒に向き合う時間に充て、一層の教育活動の充実を目指したい。